

## 交付図書の訂正について

令和6年11月1日付けで入札公告を行った「常磐自動車道 R7いわき管内舗装補修工事」に係る交付図書に一部誤りがあったため、別添のとおり訂正します。

なお、当社ホームページ掲載の交付図書についても、同日付で訂正したものに改めておりますので、再度、交付図書をご確認ください。

令和 7年 1月21日

契約責任者

東日本高速道路株式会社  
東北支社長 梅木 秀郎

### 【訂正内容】

- ・ 特記仕様書
- ・ 設計図
- ・ 割掛対象表参考内訳書

※訂正箇所は、別添「正誤表」をご確認ください。

（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤									
特記仕様書 6 頁	<div><p>ただし、監督員が必要と認めて冬季休止期間中に工事を行うことを指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、これに要する費用については、別途監督員と受注者との協議して定めるものとする。</p><p>7－3 夜間作業</p><p>共通仕様書 1－1 3「作業日」の規定にかかわらず夜間作業を行うことができるものとする。ただし、夜間作業を実施する場合は、共通仕様書 1－1 9－3「週間工程表」に規定する週間工程表に夜間作業となる日を記載し、監督員に確認を得なければならない。</p><p>7－4 交通規制可能時間</p><p>交通規制可能時間は下表に示す時間内とする。なお、監督員の指示により規制開始の延期または途中で規制解除（工事中止）を行うことがある。また、受注者は、交通規制による著しい渋滞若しくは、その恐れがある場合や、交通の危険及び異常気象時には、監督員の指示により、一時規制を解除（工事中止）する措置を講じなければならない。これらの措置に要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p><table><tr><th>上下別</th><th>施工区間</th><th>※規制可能時間帯</th><th>規制種別</th></tr><tr><td rowspan="2">上下</td><td>常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC</td><td rowspan="2">日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)</td><td rowspan="2">車線規制 昼夜連続車線規制 ランプ規制</td></tr><tr><td>磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC</td></tr></table><p>※上表の規制可能時間帯の（ ）内の時間は、福島県警察本部交通部高速道路交通警察隊との道路工事等協議による平均時間であり、実施工は道路工事等協議時の回答に基づくものとする。</p></div>	上下別	施工区間	※規制可能時間帯	規制種別	上下	常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC	日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)	車線規制 昼夜連続車線規制 ランプ規制	磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC
上下別	施工区間	※規制可能時間帯	規制種別							
上下	常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC	日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)	車線規制 昼夜連続車線規制 ランプ規制							
	磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC									
	正									
	<div><p>ただし、監督員が必要と認めて冬季休止期間中に工事を行うことを指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、これに要する費用については、別途監督員と受注者との協議して定めるものとする。</p><p>7－3 夜間作業</p><p>共通仕様書 1－1 3「作業日」の規定にかかわらず夜間作業を行うことができるものとする。ただし、夜間作業を実施する場合は、共通仕様書 1－1 9－3「週間工程表」に規定する週間工程表に夜間作業となる日を記載し、監督員に確認を得なければならない。</p><p>7－4 交通規制可能時間</p><p>交通規制可能時間は下表に示す時間内とする。なお、監督員の指示により規制開始の延期または途中で規制解除（工事中止）を行うことがある。また、受注者は、交通規制による著しい渋滞若しくは、その恐れがある場合や、交通の危険及び異常気象時には、監督員の指示により、一時規制を解除（工事中止）する措置を講じなければならない。これらの措置に要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p><table><tr><th>上下別</th><th>施工区間</th><th>※規制可能時間帯</th><th>規制種別</th></tr><tr><td rowspan="2">上下</td><td>常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC</td><td rowspan="2">日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)</td><td rowspan="2">車線規制 昼夜連続車線規制</td></tr><tr><td>磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC</td></tr></table><p>※上表の規制可能時間帯の（ ）内の時間は、福島県警察本部交通部高速道路交通警察隊との道路工事等協議による平均時間であり、実施工は道路工事等協議時の回答に基づくものとする。</p></div>	上下別	施工区間	※規制可能時間帯	規制種別	上下	常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC	日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)	車線規制 昼夜連続車線規制	磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC
上下別	施工区間	※規制可能時間帯	規制種別							
上下	常磐自動車道 いわき勿来 IC～新地 IC	日の出(5:30)～日の入(17:30) 昼夜連続車線規制の場合は、 規制開始日 日の出(5:30) ～規制終了日 日の入(17:30)	車線規制 昼夜連続車線規制							
	磐越自動車道 いわき JCT～いわき三和 IC									

正誤表（２／１５）

（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤																												
特記仕様書 25 頁	<div><div><div><div>20-6-2材 料</div><div>共通仕様書13-9-3「材料」に以下の項目を追加する。</div><div>1）防水層と舗装の接着剤に熱可塑性樹脂を用いた材料は使用してはならない。</div><div>2）防水層を使用する地域及びレベリング層施工時の外気温の区分は以下のとおりとする。</div><table><tr><td>地域</td><td>外気温の区分</td></tr><tr><td>寒冷な地域</td><td>低温時以外</td></tr></table><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1に使用する材料は、「舗装施工管理要領(令和5年7月)」Ⅱ-4-4「性能照査（端部保護材）」及びⅡ-3-2「要求性能(グレードⅠ)」、3-3「性能照査（グレードⅠ）」の規定に適合しなければならない。</div></div><div><div>20-6-3施 工</div><div>共通仕様書13-9-4「施工」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ-3-4の規定に従って行わなければならない。</div><div>(2)その他</div><div>施工前の既設床版に下記の状況が確認された場合、受注者は速やかに監督員報告し、その指示に従うものとする。これに伴う研掃工及び床版防水工の変更に要する費用は別途監督員と協議し定めるものとする。</div><div>①路面切削後の既設床版の地覆部に認められた損傷等により、下地処理方法の変更が必要となる場合。</div><div>②既設床版面の凹凸状況及び既存防水材、既存タックコートの固着状況により投射密度や回数の変更が必要となる場合。</div><div>③上記①②の変更に伴い、施工要領書に示す床版防水工の材料使用量の変更が必要となる場合。</div></div><div><div>20-6-4支 払</div><div>共通仕様書13-9-6「支払」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1の支払は、共通仕様書13-9-5「数量の検測」の規定に従って検測された数量に対し、1m2当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う防水材の施工、養生、境界部処理、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</div><table><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr><tr><td>13-（16）床版防水工</td><td></td></tr><tr><td>床版防水工C1（片倉高架橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr><tr><td>床版防水工C1（笹部川橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr></table><div>25</div></div></div></div> <tr><td></td><td>正</td></tr> <tr><td></td><td><div><div><div><div>20-6-2材 料</div><div>共通仕様書13-9-3「材料」に以下の項目を追加する。</div><div>1）防水層と舗装の接着剤に熱可塑性樹脂を用いた材料は使用してはならない。</div><div>2）防水層を使用する地域及びレベリング層施工時の外気温の区分は以下のとおりとする。</div><table><tr><td>地域</td><td>外気温の区分</td></tr><tr><td>寒冷な地域</td><td>低温時以外</td></tr></table><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1に使用する材料は、「舗装施工管理要領(令和5年7月)」Ⅲ-3-2「要求性能(グレードⅠ)」、3-3「性能照査（グレードⅠ）」の規定に適合しなければならない。</div></div><div><div>20-6-3施 工</div><div>共通仕様書13-9-4「施工」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ-3-4の規定に従って行わなければならない。</div><div>(2)その他</div><div>施工前の既設床版に下記の状況が確認された場合、受注者は速やかに監督員報告し、その指示に従うものとする。これに伴う研掃工及び床版防水工の変更に要する費用は別途監督員と協議し定めるものとする。</div><div>①路面切削後の既設床版の地覆部に認められた損傷等により、下地処理方法の変更が必要となる場合。</div><div>②既設床版面の凹凸状況及び既存防水材、既存タックコートの固着状況により投射密度や回数の変更が必要となる場合。</div><div>③上記①②の変更に伴い、施工要領書に示す床版防水工の材料使用量の変更が必要となる場合。</div></div><div><div>20-6-4支 払</div><div>共通仕様書13-9-6「支払」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1の支払は、共通仕様書13-9-5「数量の検測」の規定に従って検測された数量に対し、1m2当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う防水材の施工、養生、境界部処理、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</div><table><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr><tr><td>13-（16）床版防水工</td><td></td></tr><tr><td>床版防水工C1（片倉高架橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr><tr><td>床版防水工C1（笹部川橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr></table><div>25</div></div></div></div></td></tr>	地域	外気温の区分	寒冷な地域	低温時以外	単価表の項目	検測の単位	13-（16）床版防水工		床版防水工C1（片倉高架橋）	m <sup>2</sup>	床版防水工C1（笹部川橋）	m <sup>2</sup>		正		<div><div><div><div>20-6-2材 料</div><div>共通仕様書13-9-3「材料」に以下の項目を追加する。</div><div>1）防水層と舗装の接着剤に熱可塑性樹脂を用いた材料は使用してはならない。</div><div>2）防水層を使用する地域及びレベリング層施工時の外気温の区分は以下のとおりとする。</div><table><tr><td>地域</td><td>外気温の区分</td></tr><tr><td>寒冷な地域</td><td>低温時以外</td></tr></table><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1に使用する材料は、「舗装施工管理要領(令和5年7月)」Ⅲ-3-2「要求性能(グレードⅠ)」、3-3「性能照査（グレードⅠ）」の規定に適合しなければならない。</div></div><div><div>20-6-3施 工</div><div>共通仕様書13-9-4「施工」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ-3-4の規定に従って行わなければならない。</div><div>(2)その他</div><div>施工前の既設床版に下記の状況が確認された場合、受注者は速やかに監督員報告し、その指示に従うものとする。これに伴う研掃工及び床版防水工の変更に要する費用は別途監督員と協議し定めるものとする。</div><div>①路面切削後の既設床版の地覆部に認められた損傷等により、下地処理方法の変更が必要となる場合。</div><div>②既設床版面の凹凸状況及び既存防水材、既存タックコートの固着状況により投射密度や回数の変更が必要となる場合。</div><div>③上記①②の変更に伴い、施工要領書に示す床版防水工の材料使用量の変更が必要となる場合。</div></div><div><div>20-6-4支 払</div><div>共通仕様書13-9-6「支払」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1の支払は、共通仕様書13-9-5「数量の検測」の規定に従って検測された数量に対し、1m2当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う防水材の施工、養生、境界部処理、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</div><table><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr><tr><td>13-（16）床版防水工</td><td></td></tr><tr><td>床版防水工C1（片倉高架橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr><tr><td>床版防水工C1（笹部川橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr></table><div>25</div></div></div></div>	地域	外気温の区分	寒冷な地域	低温時以外	単価表の項目	検測の単位	13-（16）床版防水工		床版防水工C1（片倉高架橋）	m <sup>2</sup>	床版防水工C1（笹部川橋）	m <sup>2</sup>
地域	外気温の区分																												
寒冷な地域	低温時以外																												
単価表の項目	検測の単位																												
13-（16）床版防水工																													
床版防水工C1（片倉高架橋）	m <sup>2</sup>																												
床版防水工C1（笹部川橋）	m <sup>2</sup>																												
	正																												
	<div><div><div><div>20-6-2材 料</div><div>共通仕様書13-9-3「材料」に以下の項目を追加する。</div><div>1）防水層と舗装の接着剤に熱可塑性樹脂を用いた材料は使用してはならない。</div><div>2）防水層を使用する地域及びレベリング層施工時の外気温の区分は以下のとおりとする。</div><table><tr><td>地域</td><td>外気温の区分</td></tr><tr><td>寒冷な地域</td><td>低温時以外</td></tr></table><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1に使用する材料は、「舗装施工管理要領(令和5年7月)」Ⅲ-3-2「要求性能(グレードⅠ)」、3-3「性能照査（グレードⅠ）」の規定に適合しなければならない。</div></div><div><div>20-6-3施 工</div><div>共通仕様書13-9-4「施工」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1</div><div>床版防水工C1の施工は、「舗装施工管理要領」Ⅲ-3-4の規定に従って行わなければならない。</div><div>(2)その他</div><div>施工前の既設床版に下記の状況が確認された場合、受注者は速やかに監督員報告し、その指示に従うものとする。これに伴う研掃工及び床版防水工の変更に要する費用は別途監督員と協議し定めるものとする。</div><div>①路面切削後の既設床版の地覆部に認められた損傷等により、下地処理方法の変更が必要となる場合。</div><div>②既設床版面の凹凸状況及び既存防水材、既存タックコートの固着状況により投射密度や回数の変更が必要となる場合。</div><div>③上記①②の変更に伴い、施工要領書に示す床版防水工の材料使用量の変更が必要となる場合。</div></div><div><div>20-6-4支 払</div><div>共通仕様書13-9-6「支払」に以下の項目を追加する。</div><div>(1)床版防水工C1の支払は、共通仕様書13-9-5「数量の検測」の規定に従って検測された数量に対し、1m2当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う防水材の施工、養生、境界部処理、止水処理等床版防水工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</div><table><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr><tr><td>13-（16）床版防水工</td><td></td></tr><tr><td>床版防水工C1（片倉高架橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr><tr><td>床版防水工C1（笹部川橋）</td><td>m<sup>2</sup></td></tr></table><div>25</div></div></div></div>	地域	外気温の区分	寒冷な地域	低温時以外	単価表の項目	検測の単位	13-（16）床版防水工		床版防水工C1（片倉高架橋）	m <sup>2</sup>	床版防水工C1（笹部川橋）	m <sup>2</sup>																
地域	外気温の区分																												
寒冷な地域	低温時以外																												
単価表の項目	検測の単位																												
13-（16）床版防水工																													
床版防水工C1（片倉高架橋）	m <sup>2</sup>																												
床版防水工C1（笹部川橋）	m <sup>2</sup>																												



（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象

特記仕様書

39 頁

誤

2 0－1 7－2 割付図の確認等

受注者は現地調査後、既設構造物、埋設物等を考慮した施工用割付図を監督員に提出し、その確認を得なければならない。監督員は提出された割付図の内容を確認後、その結果を書面で通知するものとする。

2 0－1 7－3 種 別

車線区分柵設置工の単価表の項目の種別は、下表のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	支柱間隔 (m)	施工区分
車線区分柵設置工 LD－D 4	土工部におけるワイヤロープの設置(基礎を含む)を行うもので、以下の内容のもの。 ・ワイヤロープ（土工部） ・基礎部削孔 ・スリーブ（H=700mm、スリーブカバー、根固め基礎ブロック、モルタル含む） ・中間、端末支柱（間隔材、ストラップ、キャップ、反射シート、支柱カバー含む） ・中間ターンバックル（索端金具、ワイヤクリップ、ボルト含む） ・端末（ターンバックル、索端金具、ボルト含む） ※端末基礎は別途検測	4	土工部（標準部）
車線区分柵設置工 LD－B 4	既設橋梁部におけるワイヤロープの設置を行うもので、以下の内容のもの。 ・ワイヤロープ（中小橋・路掛版部） ・基礎部舗装切断、除去等 ・床版面の表面処理 ・基礎接着剤の塗布 ・既設橋梁用支柱（アンカーボルト、ベースプレート、間隔材、ストラップ、キャップ、反射シート、支柱カバー含む） ・基礎部塗膜防水止水材またはゲースタフボルト系路面補修材 ※基礎用コンクリート別途検測	4	中小橋・路掛版部
車線区分柵設置工 LD－T 2	ワイヤロープ 端末基礎の設置を行うもので、以下の内容のもの。 ・端末杭基礎：鋼管杭 5 本/箇所（固定ボルト、端末金具を含む）	－	土工部
車線区分柵設置工 基礎コンクリート	既設橋梁部における定着式基礎のコンクリート打設を行うもの。（超速硬コンクリート）	－	中小橋・路掛版部

2 0－1 7－4 材 料

車線区分柵設置工に使用する材料は、ワイヤーロープ（LD種）設置マニュアル（案）に示す規格に適合するものとする。なお、既設橋梁に設置するワイヤーロープの基礎コンクリートの材料については共通仕様書 1 7－7－3 「材料及び配合」（１）超速硬コンクリートに以下の項目を追加するものとする。

材料名	材令 2 8 日における圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )
超速硬コンクリート	3 0

39

正

2 0－1 7 車線区分柵設置工

2 0－1 7－1 定 義

車線区分柵設置工とは、非分離 2 車線区間の簡易分離中央線構造箇所に、反対車線への逸脱防止用車線区分柵を設置することをいう

2 0－1 7－2 割付図の確認等

受注者は現地調査後、既設構造物、埋設物等を考慮した施工用割付図を監督員に提出し、その確認を得なければならない。監督員は提出された割付図の内容を確認後、その結果を書面で通知するものとする。

2 0－1 7－3 種 別

車線区分柵設置工の単価表の項目の種別は、下表のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	支柱間隔 (m)	施工区分
車線区分柵設置工 LD－D 4	土工部におけるワイヤロープの設置(基礎を含む)を行うもので、以下の内容のもの。 ・ワイヤロープ（土工部） ・基礎部削孔 ・スリーブ（H=700mm、スリーブカバー、根固め基礎ブロック、モルタル含む） ・中間、端末支柱（間隔材、ストラップ、キャップ、反射シート、支柱カバー含む） ・中間ターンバックル（索端金具、ワイヤクリップ、ボルト含む） ・端末（ターンバックル、索端金具、ボルト含む） ※端末基礎は別途検測	4	土工部（標準部）
車線区分柵設置工 LD－B 4	既設橋梁部におけるワイヤロープの設置を行うもので、以下の内容のもの。 ・ワイヤロープ（中小橋・路掛版部） ・基礎部舗装切断、除去等 ・床版面の表面処理 ・基礎接着剤の塗布 ・既設橋梁用支柱（アンカーボルト、ベースプレート、間隔材、ストラップ、キャップ、反射シート、支柱カバー含む） ・基礎部塗膜防水止水材またはゲースタフボルト系路面補修材 ※基礎用コンクリート別途検測	4	中小橋・路掛版部
車線区分柵設置工 LD－T 2	ワイヤロープ 端末基礎の設置を行うもので、以下の内容のもの。 ・端末杭基礎：鋼管杭 5 本/箇所（固定ボルト、端末金具、 <b>反射材</b> を含む）	－	土工部
車線区分柵設置工 基礎コンクリート	既設橋梁部における定着式基礎のコンクリート打設を行うもの。（超速硬コンクリート）	－	中小橋・路掛版部

2 0－1 7－4 材 料

車線区分柵設置工に使用する材料は、ワイヤーロープ（LD種）設置マニュアル（案）に示す規格に適合するものとする。なお、既設橋梁に設置するワイヤーロープの基礎コンクリートの材料については共通仕様書 1 7－7－3 「材料及び配合」（１）超速硬コンクリートに以下の項目を追加するものとする。

39

正誤表（５／１５）

（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤				
特記仕様書 40 頁	<div><div>20-17-5 施 工</div><div><p>（１）車線区分柵の施工は、ワイヤーロープ（LD種）設置マニュアル（案）及び共通仕様書17-7-4「施工」の規定によるものとする。なお、施工途中の規制解放計画等については、別途監督員と十分な協議を行い、取り決めるものとする。</p><p>（２）床版面の表面処理は新旧コンクリートの付着強度が1．5 N／mm<sup>2</sup>確保できる工法にて実施するものとする。</p><p>（３）車線区分柵設置工LD-T2の鋼管杭の根入れ長確認については、「防護柵施工管理要領（令和5年7月版）6．現場の検査(1)土工部」に従うものとし、契約後、監督員と協議したうえで実施するものとする。なお、非破壊試験による出来形管理を行うこととした場合は設計変更の対象とする。</p><p>（４）基礎コンクリートの使用数量については、設置箇所の箱抜き寸法及び空袋等により確認を行うものとする。</p><p>（５）車線区分柵設置工LD-B4設置箇所において、現地開削等により設計図書に示す基礎定着面の深さ等と合致しない場合は速やかに監督員の確認を得るものとし、その指示に従うものとする。なお、これに要する費用については、別途監督員と受注者として協議し定めることができるものとする。</p></div><div>20-17-6 数量の検測</div><div><p>（１）車線区分柵設置工LD-D4及びLD-B4の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。ただし、延長はワイヤロープ端末支柱の中心から中心までを、中間支柱の中心を結ぶ線に沿って測定する。</p><p>（２）車線区分柵設置工 LD-T2の数量の検測は、設計数量（箇所）で行うものとする</p><p>（３）車線区分柵設置工 基礎コンクリートの数量の検測は、設計数量（m3）で行うものとする。なお、コンクリート中のアンカーの数量は、検測数量から控除しないものとする。また、数量の検測及び支払の小数位については、共通仕様書1-31-4「数量の小数位」①鋼材、樹脂モルタル等を適用するものとする。</p></div><div>20-17-7 支 払</div><div><p>（１）車線区分柵設置工LD-D4の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装路面の削孔、根固めブロックの箱抜き、廃材（削孔粉体及び根固めブロック箱抜き）及び土砂の処理、スリーブの打設、中間・端末支柱の建込み、根固めブロック、取付け、緊張、反射シートの貼付等車線区分柵設置工LD-D4の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p></div><div>40</div></div>				
	正				
	<div><table><tr><td>材料名</td><td>材令28日における圧縮強度 (N/mm<sup>2</sup>)</td></tr><tr><td>超速硬コンクリート</td><td>30</td></tr></table></div> <div><div>20-17-5 施 工</div><div><p>（１）車線区分柵の施工は、ワイヤーロープ（LD種）設置マニュアル（案）及び共通仕様書17-7-4「施工」の規定によるものとする。なお、施工途中の規制解放計画等については、別途監督員と十分な協議を行い、取り決めるものとする。</p><p>（２）床版面の表面処理は新旧コンクリートの付着強度が1．5 N／mm<sup>2</sup>確保できる工法にて実施するものとする。</p><p>（３）車線区分柵設置工LD-T2の鋼管杭の根入れ長確認については、「防護柵施工管理要領（令和5年7月版）6．現場の検査(1)土工部」に従うものとし、契約後、監督員と協議したうえで実施するものとする。なお、非破壊試験による出来形管理を行うこととした場合は設計変更の対象とする。</p><p>（４）基礎コンクリートの使用数量については、設置箇所の箱抜き寸法及び空袋等により確認を行うものとする。</p><p>（５）車線区分柵設置工LD-B4設置箇所において、現地開削等により設計図書に示す基礎定着面の深さ等と合致しない場合は速やかに監督員の確認を得るものとし、その指示に従うものとする。なお、これに要する費用については、別途監督員と受注者として協議し定めることができるものとする。</p></div><div>20-17-6 数量の検測</div><div><p>（１）車線区分柵設置工LD-D4及びLD-B4の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。ただし、延長はワイヤロープ端末支柱の中心から中心までを、中間支柱の中心を結ぶ線に沿って測定する。</p><p>（２）車線区分柵設置工 LD-T2の数量の検測は、設計数量（箇所）で行うものとする</p><p>（３）車線区分柵設置工 基礎コンクリートの数量の検測は、設計数量（m3）で行うものとする。なお、コンクリート中のアンカーの数量は、検測数量から控除しないものとする。また、数量の検測及び支払の小数位については、共通仕様書1-31-4「数量の小数位」①鋼材、樹脂モルタル等を適用するものとする。</p></div><div>20-17-7 支 払</div><div><p>（１）車線区分柵設置工LD-D4の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装路面の削孔、根固めブロックの箱抜き、廃材（削孔粉体及び根固めブロック箱抜き）及び土砂の処理、スリーブの打設、中間・端末支柱の建込み、根固めブロック、取付け、緊張、反射シートの貼付等車線区分柵設置工LD-D4の施工に要する材料・労力・機械器具等本工</p></div><div>40</div></div>	材料名	材令28日における圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	超速硬コンクリート	30
材料名	材令28日における圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )				
超速硬コンクリート	30				



（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤																		
特記仕様書 41 頁	<div><p>(2) 車線区分柵設置工LD-B 4の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装切断・除去、橋梁床版面の表面処理及び接着剤塗布、アンカーボルト設置、表層のカッター処理及び塗膜防水止水材の充填またはグースアスファルト系路面補修材の充填、橋梁用支柱の建込み、取付け、緊張、反射シートの貼付等車線区分柵設置工LD-B 4の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><p>(3) 車線区分柵設置工LD-T 2の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 箇所当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装路面の削孔、削孔土砂の埋戻し、鋼管ぐいの打設、端金具の設置等車線区分柵設置工LD-T 2の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><p>(4) 車線区分柵設置工基礎コンクリートの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うコンクリート材料の計量、練混ぜ、打設、型わく、仕上げ、養生、既設舗装の切断、撤去、再資源化施設への廃材の運搬、処分等車線区分柵設置工基礎コンクリートの施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><table><thead><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr></thead><tbody><tr><td>特－（6）</td><td>車線区分柵設置工</td></tr><tr><td></td><td>LD-D 4</td></tr><tr><td></td><td>LD-B 4</td></tr><tr><td></td><td>LD-T 2</td></tr><tr><td></td><td>基礎コンクリート</td></tr></tbody></table><p>20-18 衝撃緩衝工 20-18-1 定 義</p><p>衝撃緩衝工とは、設計図書及び監督員の指示に従って車線区分柵の端部にゴム製のブロックを設置することをいう。</p><p>20-18-2 種 別</p><p>衝撃緩衝工の単価表の項目の種別は下表のとおりとする。</p><table><thead><tr><th>単価表の項目</th><th>内 容</th></tr></thead><tbody><tr><td>衝撃緩衝工</td><td>①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様</td></tr><tr><td>安全ブロック工</td><td>②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）</td></tr></tbody></table><p>41</p></div>	単価表の項目	検測の単位	特－（6）	車線区分柵設置工		LD-D 4		LD-B 4		LD-T 2		基礎コンクリート	単価表の項目	内 容	衝撃緩衝工	①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様	安全ブロック工	②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）
単価表の項目	検測の単位																		
特－（6）	車線区分柵設置工																		
	LD-D 4																		
	LD-B 4																		
	LD-T 2																		
	基礎コンクリート																		
単価表の項目	内 容																		
衝撃緩衝工	①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様																		
安全ブロック工	②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）																		
	正																		
	<div><p>事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><p>(2) 車線区分柵設置工LD-B 4の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装切断・除去、橋梁床版面の表面処理及び接着剤塗布、アンカーボルト設置、表層のカッター処理及び塗膜防水止水材の充填またはグースアスファルト系路面補修材の充填、橋梁用支柱の建込み、取付け、緊張、反射シートの貼付等車線区分柵設置工LD-B 4の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><p>(3) 車線区分柵設置工LD-T 2の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 箇所当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う舗装路面の削孔、削孔土砂の埋戻し、鋼管ぐいの打設、端金具の設置、<b>反射材の取付</b>等車線区分柵設置工LD-T 2の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><p>(4) 車線区分柵設置工基礎コンクリートの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うコンクリート材料の計量、練混ぜ、打設、型わく、仕上げ、養生、既設舗装の切断、撤去、再資源化施設への廃材の運搬、処分等車線区分柵設置工基礎コンクリートの施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。</p><table><thead><tr><th>単価表の項目</th><th>検測の単位</th></tr></thead><tbody><tr><td>特－（6）</td><td>車線区分柵設置工</td></tr><tr><td></td><td>LD-D 4</td></tr><tr><td></td><td>LD-B 4</td></tr><tr><td></td><td>LD-T 2</td></tr><tr><td></td><td>基礎コンクリート</td></tr></tbody></table><p>20-18 衝撃緩衝工 20-18-1 定 義</p><p>衝撃緩衝工とは、設計図書及び監督員の指示に従って車線区分柵の端部にゴム製のブロックを設置することをいう。</p><p>20-18-2 種 別</p><p>衝撃緩衝工の単価表の項目の種別は下表のとおりとする。</p><table><thead><tr><th>単価表の項目</th><th>内 容</th></tr></thead><tbody><tr><td>衝撃緩衝工</td><td>①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様</td></tr><tr><td>安全ブロック工</td><td>②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）</td></tr></tbody></table><p>41</p></div>	単価表の項目	検測の単位	特－（6）	車線区分柵設置工		LD-D 4		LD-B 4		LD-T 2		基礎コンクリート	単価表の項目	内 容	衝撃緩衝工	①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様	安全ブロック工	②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）
単価表の項目	検測の単位																		
特－（6）	車線区分柵設置工																		
	LD-D 4																		
	LD-B 4																		
	LD-T 2																		
	基礎コンクリート																		
単価表の項目	内 容																		
衝撃緩衝工	①ブロックの本体はSBR合成ゴム製（黒色）仕様																		
安全ブロック工	②アンカーボルト（六角ボルト M24×240 亜鉛メッキ）																		

(工事名) 常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象

誤

設計図

68/88

68 / 88

詳細図 ( 1 5 )

衝撃緩衝工詳細図

安全ブロックエ ( Y )

車線分離標 ポール ( H = 1500mm ) ( Y )

平面図

正面図

設置図

ベース部詳細図

車線分離標 ポール ( H = 1500mm ) ( Y )

品番	品名	数量	材質	備考
①	キャップ	1	特殊ウレタン樹脂	白色
②	本体	1	特殊ウレタン樹脂	白色
③	反射材	5	フレキブルガラス反射シート	白色
④	ベース部	1	特殊ウレタン樹脂	白色
⑤	反射材	—	ガラスビーズ	白色
⑥	埋付ボルト	1	ステンレス ( M24×55 )	—
⑦	スペーサー	1	合成ゴム	—
⑧	埋込アンカー	1	アルミコウム合金	—

安全ブロックエ ( Y ) 詳細図

側面図

正面図

常磐自動車道  
R 7いわき管内舗装補修工事

詳細図 ( 1 5 )

図 尺

図 尺

設計会社

設計者

監理会社

監理者

東日本高速道路株式会社 東北支社  
いわき管理事務所

正

68 / 88

詳細図 ( 1 5 )

衝撃緩衝工詳細図

安全ブロックエ ( Y )

車線分離標 ポール ( H = 1500mm ) ( Y )

平面図

正面図

設置図

ベース部詳細図

車線分離標 ポール ( H = 1500mm ) ( Y )

品番	品名	数量	材質	備考
①	キャップ	1	特殊ウレタン樹脂	白色
②	本体	1	特殊ウレタン樹脂	白色
③	反射材	5	フレキブルガラス反射シート	白色
④	ベース部	1	特殊ウレタン樹脂	白色
⑤	反射材	—	ガラスビーズ	白色
⑥	埋付ボルト	1	ステンレス ( M24×55 )	—
⑦	スペーサー	1	合成ゴム	—
⑧	埋込アンカー	1	アルミコウム合金	—

安全ブロックエ ( Y ) 詳細図

側面図

正面図

常磐自動車道  
R 7いわき管内舗装補修工事

詳細図 ( 1 5 )

図 尺

図 尺

設計会社

設計者

監理会社

監理者

東日本高速道路株式会社 東北支社  
いわき管理事務所



(工事名) 常磐自動車道 R7いわき管内舗装補修工事

対象

誤

設計図

76/88

76 / 88

車線規制(追越車線) (70・80km区間)

交通規制図(2)

- ラバーコーンは、20m間隔でセンターラインを越えて設置する。
- 工事規制手前「500m」「300m」「200m」「100m」「50m」に矢印板を置き車線減少及び工事の予告を行う。  
(現地線形に応じて追加する。)
- 工事中区間が1kmを超える場合には、1kmにつき1基ずつの割合で速度規制標識を設置する。  
また、規制延長をラバーコーンカバーにより表示する。
- 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- ロボット誘導員は、**左**に旗をもつ**追越車線**に誘導する。
- 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は、撤収する場合がある。
- 防護車両については、工事箇所の20m手前に設置する。

昼夜別	車線数	上・下	規制車線
昼間	2車線	上下線	追越規制

標識車の標示項目
工 事
速度 落 せ

縦断勾配・横断勾配の線形や交通管理施設の設置を考慮し、工事箇所(100m以上)やテーパー部(300m)を設置することで、現場状況に応じた適切な規制設置とする。

規制機材等区分表

項 目	細 目	区分	備考
		受注者	発注者
規制標識		○	⑨～⑩
矢印板	テーパー及びテーパー先頭部	○	昼夜間用
ラバーコーン		○	
自発光警告灯	規制先頭部	○	
ロボット誘導員		○	
標識車		○	2t
工事用看板		○	①～⑥、⑧
赤色回転灯		○	
進入車両強制停止装置	施工箇所上流に設置	○	⑦
防護車両	現場乗込車両4車程度	○	
ワイヤレス式サイレン	工事箇所に設置	○	

常 磐 自 動 車 道 R7いわき管内舗装補修工事	
実家の種類	交通規制図 (2)
規 尺	図章番号
設計会社名	
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき管 理 事 務 所

正

76 / 88

車線規制(追越車線) (70・80km区間)

交通規制図(2)

- ラバーコーンは、20m間隔でセンターラインを越えて設置する。
- 工事規制手前「500m」「300m」「200m」「100m」「50m」に矢印板を置き車線減少及び工事の予告を行う。  
(現地線形に応じて追加する。)
- 工事中区間が1kmを超える場合には、1kmにつき1基ずつの割合で速度規制標識を設置する。  
また、規制延長をラバーコーンカバーにより表示する。
- 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- ロボット誘導員は、**右**に旗をもつ**走行車線**に誘導する。
- 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は、撤収する場合がある。
- 防護車両については、工事箇所の20m手前に設置する。

昼夜別	車線数	上・下	規制車線
昼間	2車線	上下線	追越規制

標識車の標示項目
工 事
速度 落 せ

縦断勾配・横断勾配の線形や交通管理施設の設置を考慮し、工事箇所(100m以上)やテーパー部(300m)を設置することで、現場状況に応じた適切な規制設置とする。

規制機材等区分表

項 目	細 目	区分	備考
		受注者	発注者
規制標識		○	⑨～⑩
矢印板	テーパー及びテーパー先頭部	○	昼夜間用
ラバーコーン		○	
自発光警告灯	規制先頭部	○	
ロボット誘導員		○	
標識車		○	2t
工事用看板		○	①～⑥、⑧
赤色回転灯		○	
進入車両強制停止装置	施工箇所上流に設置	○	⑦
防護車両	現場乗込車両4車程度	○	
ワイヤレス式サイレン	工事箇所に設置	○	

常 磐 自 動 車 道 R7いわき管内舗装補修工事	
実家の種類	交通規制図 (2)
規 尺	図章番号
設計会社名	
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき管 理 事 務 所

(工事名) 常磐自動車道 R7いわき管内舗装補修工事

対象

誤

設計図

79/88

79 / 88

車線規制(追越車線) (100km区間)

交通規制図(5)

- ラバーコーンは、20m間隔でセンターラインを越えて設置する。
- 工事規制手前「500m」「300m」「200m」「100m」「50m」に矢印板を置き車線減少及び工事の予告を行う。  
(現地地形に応じて追加する。)
- 工事中区間が1kmを超える場合には、1kmにつき1基ずつの割合で速度規制標識を設置する。  
また、規制延長をラバーコーンカーバーにより表示する。
- 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- ロボット誘導員は、『左』に旗をもつ『追越車線』に誘導する。
- 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は、撤収する必要がある。
- 防護車両については、工事箇所の20m手前に設置する。

昼夜別	車線数	上・下	規制車線
昼間	2車線	上下線	追越規制

縦断勾配・横断勾配の線形や交通管理施設の設置を考慮し、工事箇所(100m以上)やテーパー部(300m)を設置することで、現場状況に応じた適切な規制設置とする。

規制機材等区分表

項目	細目	区分		備考
		要注者	免注者	
規制標識			○	⑨～⑪
矢印板	テーパー及びテーパー先頭部		○	昼夜間用
ラバーコーン			○	
自発光警告灯	規制先頭部	○		
ロボット誘導員			○	
標識車			○	2t
工事用看板			○	①～⑥、⑧
赤色回転灯		○		
進入車両強制停止装置	施工箇所上流に設置	○		⑦
防護車両	現場乗込車両4t車程度	○		
ワイヤレス式サイレン	工事箇所に設置	○		

常設自動車道 R7いわき管内舗装補修工事			
道路の種類	交通規制図(5)		
種別	図面番号		
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東北支社 いわき管理事務所		

正

79 / 88

車線規制(追越車線) (100km区間)

交通規制図(5)

- ラバーコーンは、20m間隔でセンターラインを越えて設置する。
- 工事規制手前「500m」「300m」「200m」「100m」「50m」に矢印板を置き車線減少及び工事の予告を行う。  
(現地地形に応じて追加する。)
- 工事中区間が1kmを超える場合には、1kmにつき1基ずつの割合で速度規制標識を設置する。  
また、規制延長をラバーコーンカーバーにより表示する。
- 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- ロボット誘導員は、『左』に旗をもつ『追越車線』に誘導する。
- 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は、撤収する必要がある。
- 防護車両については、工事箇所の20m手前に設置する。

昼夜別	車線数	上・下	規制車線
昼間	2車線	上下線	追越規制

縦断勾配・横断勾配の線形や交通管理施設の設置を考慮し、工事箇所(100m以上)やテーパー部(300m)を設置することで、現場状況に応じた適切な規制設置とする。

規制機材等区分表

項目	細目	区分		備考
		要注者	免注者	
規制標識			○	⑨～⑪
矢印板	テーパー及びテーパー先頭部		○	昼夜間用
ラバーコーン			○	
自発光警告灯	規制先頭部	○		
ロボット誘導員			○	
標識車			○	2t
工事用看板			○	①～⑥、⑧
赤色回転灯		○		
進入車両強制停止装置	施工箇所上流に設置	○		⑦
防護車両	現場乗込車両4t車程度	○		
ワイヤレス式サイレン	工事箇所に設置	○		

常設自動車道 R7いわき管内舗装補修工事			
道路の種類	交通規制図(5)		
種別	図面番号		
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東北支社 いわき管理事務所		

(工事名) 常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象

誤

設計図  
83/88

8 3 / 8 8

通行止規制 A

- 1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。
- 2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- 3. 案内標識は全て高輝度とする。

交通規制図(9)

規制機材等区分表

項 目	細 目	区分		備考
		受注者	発注者	
ラバーコーン			○	自発光デジタルメッセージ含む
矢印板			○	昼夜間用
LED看板			○	①昼夜間用
看板(高輝度)			○	②③昼夜間用

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

常 磐 自 動 車 道 R 7 い わ き 管 内 舗 装 補 修 工 事			
図面の種類	交通規制図 ( 9 )		
縮 尺	図面番号		
設計会社名			
施工会社名			
業務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 管 理 課 第 一 課		

正

8 3 / 8 8

通行止規制 A

- 1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。
- 2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。
- 3. 案内標識は全て高輝度とする。

交通規制図(9)

規制機材等区分表

項 目	細 目	区分		備考
		受注者	発注者	
ラバーコーン			○	自発光デジタルメッセージ含む
矢印板			○	昼夜間用
LED看板			○	①昼夜間用
看板(高輝度)			○	②③昼夜間用

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

常 磐 自 動 車 道 R 7 い わ き 管 内 舗 装 補 修 工 事			
図面の種類	交通規制図 ( 9 )		
縮 尺	図面番号		
設計会社名			
施工会社名			
業務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 管 理 課 第 一 課		



(工事名) 常磐自動車道 R7いわき管内舗装補修工事

対象	誤
<div>設計図</div> <div>85/88</div>	<div>85／88</div> <div>交通規制図(11)</div> <div>通行止規制 B(2)</div> <div><div>1. ラバーコーンは、20m間隔で設置する。</div><div>2. 工事規制手前「500m」「300m」「追越禁止先50(テーパー100m手前)」の車線減少標識設置箇所及び工事中増加設置箇所に矢印板を置き、車線減少及び工事の予告を行う。(現地規制に応じて通知する。)</div><div>3. 夜間規制時は、標識看板に照明を設置し、矢印板は自発光式とする。 ラバーコーンの自発光装置設置間隔は、工事区間40mピッチを基本とする。その他は現地状況に応じて設置する。</div><div>4. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。</div><div>5. ロボット誘導員は <b>右手</b>に旗をもつ <b>追越車線</b>に誘導する。</div><div>6. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div> <div><div>標識車の標示項目</div><div>工 事</div><div>速度落せ</div></div> <div><div>16：00～20：00</div><div>交通監視員 (規制付)</div><div>ロボット誘導員</div><div>テーパー部 ラバーコーン15本 自発光矢印板 16枚(20m間隔)</div><div>中央分離帯</div><div>通行方向</div><div>ラバーコーン 20m間隔(夜間:ラバコン1本毎に自発光デリニエータを設置)</div><div>IC出口</div><div>100m</div><div>テーパー長 300m</div><div>12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1</div><div>100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 250m 250m</div><div>20：00～翌5：00</div><div>交通監視員 (規制付)</div><div>自発光警告灯</div><div>テーパー部 ラバーコーン20本 自発光矢印板 21枚(20m間隔)</div><div>中央分離帯</div><div>通行方向</div><div>施工箇所</div><div>IC出口</div><div>100m</div><div>テーパー長 400m</div><div>12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1</div><div>100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 250m 250m</div></div> <div><div>常 磐 自 動 車 道 R7いわき管内舗装補修工事</div><div>図面の種類 交通規制図 ( 1 1 )</div><div>縮 尺 〃 図面番号 〃</div><div>設計会社名 〃</div><div>施工会社名 〃</div><div>事務所名 東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき管理事務所</div></div>
	<div>正</div> <div>交通規制図(11)</div> <div>通行止規制 B(2)</div> <div><div>1. ラバーコーンは、20m間隔で設置する。</div><div>2. 工事規制手前「500m」「300m」「追越禁止先50(テーパー100m手前)」の車線減少標識設置箇所及び工事中増加設置箇所に矢印板を置き、車線減少及び工事の予告を行う。(現地規制に応じて通知する。)</div><div>3. 夜間規制時は、標識看板に照明を設置し、矢印板は自発光式とする。 ラバーコーンの自発光装置設置間隔は、工事区間40mピッチを基本とする。その他は現地状況に応じて設置する。</div><div>4. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。</div><div>5. ロボット誘導員は <b>右手</b>に旗をもつ <b>走行車線</b>に誘導する。</div><div>6. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div> <div><div>標識車の標示項目</div><div>工 事</div><div>速度落せ</div></div> <div><div>16：00～20：00</div><div>交通監視員 (規制付)</div><div>ロボット誘導員</div><div>テーパー部 ラバーコーン15本 自発光矢印板 16枚(20m間隔)</div><div>中央分離帯</div><div>通行方向</div><div>ラバーコーン 20m間隔(夜間:ラバコン1本毎に自発光デリニエータを設置)</div><div>IC出口</div><div>100m</div><div>テーパー長 300m</div><div>12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1</div><div>100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 250m 250m</div><div>20：00～翌5：00</div><div>交通監視員 (規制付)</div><div>自発光警告灯</div><div>テーパー部 ラバーコーン20本 自発光矢印板 21枚(20m間隔)</div><div>中央分離帯</div><div>通行方向</div><div>施工箇所</div><div>IC出口</div><div>100m</div><div>テーパー長 400m</div><div>12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1</div><div>100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 100m 250m 250m</div></div> <div><div>常 磐 自 動 車 道 R7いわき管内舗装補修工事</div><div>図面の種類 交通規制図 ( 1 1 )</div><div>縮 尺 〃 図面番号 〃</div><div>設計会社名 〃</div><div>施工会社名 〃</div><div>事務所名 東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき管理事務所</div></div>

(工事名) 常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象

誤

設計図

86/88

86 / 88

交通規制図(12)

通行止規制 C

1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する必要がある。  
2. 交通監視員の使用する際は、『減速』の文字入りを使用する。  
3. 案内標識は全て高輝度とする。

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

交通誘導警備員B4(Y)  
(機置)

交通係安芸員  
(高輝度)

白発光矢印板

通行止規制A

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

交通誘導警備員B4(Y)  
(機置)

交通係安芸員  
(高輝度)

白発光矢印板

通行止規制A

規制機材等区分表

項 目	細 目	区 分	備 考
ラバーコーン		要注者	要注者
矢印板		要注者	要注者

通行止規制A

① 通行止 ② 通行止 ③ 通行止

常 磐 自 動 車 道  
R 7いわき管内舗装補修工事

図面の確認

規 尺

図 説 書 号

設計会社名

施工会社名

事務所名

東日本高速道路株式会社 東北支社  
いわき管理事務所

正

86 / 88

交通規制図(12)

通行止規制 C

1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する必要がある。  
2. 交通監視員の使用する際は、『減速』の文字入りを使用する。  
3. 案内標識は全て高輝度とする。

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

IC内プラザ

交通誘導警備員B5(Y)  
(機置)

交通監視員  
(高輝度)

白発光矢印板

通行止規制A

IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態

IC内プラザ

交通誘導警備員B5(Y)  
(機置)

交通監視員  
(高輝度)

白発光矢印板

通行止規制A

規制機材等区分表

項 目	細 目	区 分	備 考
ラバーコーン		要注者	要注者
矢印板		要注者	要注者

通行止規制A

① 通行止 ② 通行止 ③ 通行止

常 磐 自 動 車 道  
R 7いわき管内舗装補修工事

図面の確認

規 尺

図 説 書 号

設計会社名

施工会社名

事務所名

東日本高速道路株式会社 東北支社  
いわき管理事務所



(工事名) 常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤
<div>設計図</div> <div>87/88</div>	<div><div>87 / 88</div><div>交通規制図 (13)</div><div><div>通行止規制 D</div><div>1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。 2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。 3. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div><div><div>いわき三和IC通行止め時-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div>※横断歩道から料金所側を施工</div><div><div>ランプ</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通保安要員</div><div>交通監視員</div><div>自動光警告灯</div></div></div><div><div>大熊IC・双葉IC通行止め時-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div>※横断歩道から料金所側を施工</div><div><div>ランプ</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通保安要員</div><div>交通監視員</div><div>自動光警告灯</div></div></div><div><div>常 磐 自 動 車 道</div><div>R 7 い わ き 管 内 舗 装 補 修 工 事</div><div>図面の種類 交通規制図 ( 1 3 )</div><div>規 尺</div><div>図面番号</div><div>設計会社名</div><div>施工会社名</div><div>事務所名 茨日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 管 理 室 務 所</div></div></div>
	正
	<div><div>87 / 88</div><div>交通規制図 (13)</div><div><div>通行止規制 D</div><div>1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。 2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。 3. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div><div><div>いわき三和IC通行止め時-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div>※横断歩道から料金所側を施工</div><div><div>ランプ</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通保安要員</div><div>交通監視員</div><div>自動光警告灯</div></div></div><div><div>大熊IC・双葉IC通行止め時-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div>※横断歩道から料金所側を施工</div><div><div>ランプ</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通保安要員</div><div>交通監視員</div><div>自動光警告旗</div></div></div><div><div>常 磐 自 動 車 道</div><div>R 7 い わ き 管 内 舗 装 補 修 工 事</div><div>図面の種類 交通規制図 ( 1 3 )</div><div>規 尺</div><div>図面番号</div><div>設計会社名</div><div>施工会社名</div><div>事務所名 茨日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 管 理 室 務 所</div></div></div>

（工事名）常磐自動車道 R7いわき管内舗装補修工事

対象	誤
<div>設計図</div> <div>88/88</div>	<div><div>88 / 88</div><div><div>いわき三和 IC A・C、B・Dランプ施工図</div><div><div>1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。</div><div>2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。</div><div>3. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div><div>交通規制図(14)</div><div><div><div>1</div><div>2</div><div>3</div></div><div>通行止規制A</div></div><div><div>いわき三和IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div><div>Dランプ</div><div>Bランプ</div><div>Aランプ</div><div>Cランプ</div></div><div><div>閉鎖</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通保安要員</div></div><div>通行止規制A</div></div><div><div>いわき三和IC-Bランプ及びDランプ-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div><div>Dランプ</div><div>Bランプ</div><div>Aランプ</div><div>Cランプ</div></div><div><div>減速</div><div>交通保安要員</div><div>閉鎖</div><div>閉鎖</div></div></div></div><div><div>常磐自動車道</div><div>R7いわき管内舗装補修工事</div><div>図面の種類</div><div>交通規制図(14)</div><div>縮尺</div><div>図面番号</div><div>設計会社名</div><div>施工会社名</div><div>事務所名</div><div>東日本高速道路株式会社 東北支社</div><div>いわき管理事務所</div></div></div>
正	正
	<div><div>88 / 88</div><div><div>いわき三和 IC A・C、B・Dランプ施工図</div><div><div>1. 強風時は、看板類など倒れる恐れのある規制材は撤収する場合がある。</div><div>2. 交通監視員の使用する旗は、『減速』の文字入りを使用する。</div><div>3. 案内標識は全て高輝度とする。</div></div><div>交通規制図(14)</div><div><div><div>1</div><div>2</div><div>3</div></div><div>通行止規制A</div></div><div><div>いわき三和IC-Aランプ及びCランプ-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div><div>Dランプ</div><div>Bランプ</div><div>Aランプ</div><div>Cランプ</div></div><div><div>閉鎖</div><div>閉鎖</div><div>減速</div><div>交通監視員BSI(Y)</div></div><div>通行止規制A</div></div><div><div>いわき三和IC-Bランプ及びDランプ-料金所前規制形態</div><div>※交通保安要員の配置人数:1+1名</div><div><div>Dランプ</div><div>Bランプ</div><div>Aランプ</div><div>Cランプ</div></div><div><div>減速</div><div>交通監視員BSI(Y)</div><div>閉鎖</div><div>閉鎖</div></div></div></div><div><div>常磐自動車道</div><div>R7いわき管内舗装補修工事</div><div>図面の種類</div><div>交通規制図(14)</div><div>縮尺</div><div>図面番号</div><div>設計会社名</div><div>施工会社名</div><div>事務所名</div><div>東日本高速道路株式会社 東北支社</div><div>いわき管理事務所</div></div></div>

（工事名）常磐自動車道 R 7いわき管内舗装補修工事

対象	誤			
割掛対象表 参考内訳書  仮路面標示工	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳（参考）	図面
			交通誘導警備員B 2（Y）：20時から翌5時までの間で、実働時間が4時間半を超え6時間以下（交代要員不要）  交通誘導警備員B 3（Y）：20時から翌5時までの間で、実働時間が6時間を超え8時間以下（交代要員不要）	
	試験舗装費 A	良好なアスファルト表層工等を仕上げるために敷均し、締固め方法等を検討することを目的に行う舗装をいい、在来舗装の切断、切削、舗装廃材の処理、混合物の製造、運搬及び舗設、瀝青材散布、工事用機械運搬等に要する費用をいう。	施工場所：南相馬IC内プラザ  試験施工①  施工面積：150㎡、切削100mm  表層：高機能舗装Ⅱ型用混合物  基層：基層用遮水性アスファルト混合物  試験施工②  施工面積、150㎡、切削35mm 1層 レベリング層：橋梁レベリング層用アスファルト混合物（FB13）  試験施工③  施工面積、150㎡、切削100mm 1層  表層：開粒度アスファルト混合物（セメントミルク含む）	○
	試験舗装費 B		施工場所：南相馬IC内プラザ  試験施工①  施工面積：150㎡、掘削150mm  上層路盤：高弾性上層路盤用混合物（HiMA）	
	仮路面標示 工	既設の路面標示が施工に伴い消滅する場合には、視線誘導として速乾性を有する常温型トラフィックペイントで仮路面標示を設置する費用をいう。（施工幅5cm）	施工数量－  6,918m（外側線）（夜間施工）	
正				
	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳（参考）	図面
			交通誘導警備員B 2（Y）：20時から翌5時までの間で、実働時間が4時間半を超え6時間以下（交代要員不要）  交通誘導警備員B 3（Y）：20時から翌5時までの間で、実働時間が6時間を超え8時間以下（交代要員不要）	
	試験舗装費 A	良好なアスファルト表層工等を仕上げるために敷均し、締固め方法等を検討することを目的に行う舗装をいい、在来舗装の切断、切削、舗装廃材の処理、混合物の製造、運搬及び舗設、瀝青材散布、工事用機械運搬等に要する費用をいう。	施工場所：南相馬IC内プラザ  試験施工①  施工面積：150㎡、切削100mm  表層：高機能舗装Ⅱ型用混合物  基層：基層用遮水性アスファルト混合物  試験施工②  施工面積、150㎡、切削35mm 1層 レベリング層：橋梁レベリング層用アスファルト混合物（FB13）  試験施工③  施工面積、150㎡、切削100mm 1層  表層：開粒度アスファルト混合物（セメントミルク含む）	○
	試験舗装費 B		施工場所：南相馬IC内プラザ  試験施工①  施工面積：150㎡、掘削150mm  上層路盤：高弾性上層路盤用混合物（HiMA）	
	仮路面標示 工	既設の路面標示が施工に伴い消滅する場合には、視線誘導として速乾性を有する常温型トラフィックペイントで仮路面標示を設置する費用をいう。（施工幅5cm）	施工数量－  7,640m（外側線）（夜間施工）	